

演題番号：C16

毛周期停止の犬15例に対して行ったトリロスタン投与の有効性の検討

○村島生祐^{1) 4)}，辻 佑佳^{2) 4)}，小細浩身²⁾，河口祐一郎³⁾，森 尚志¹⁾，岩崎利郎⁴⁾

¹⁾ 犬クッキー動物病院京都医療センター，²⁾ クッキー動物病院，³⁾ ひまわり動物病院，⁴⁾ ペットの皮膚科

1. はじめに：毛周期停止は進行性脱毛を特徴とする非炎症性の皮膚疾患であり、原因不明とされている。根本的な治療は確立されておらず、内服薬やサプリメント、保湿、マイクロニードルなどさまざまな治療法が提唱されているが、有効性を調べた報告は少ない。トリロスタンの投与に関して、2004年の報告で有効性が検討されているものの、それ以降まとまった報告はない。そこで、毛周期停止と診断した症例にトリロスタンを投与し、その有効性を検討した。

2. 材料および方法：対象とした症例は以下の(1)～(3)の条件に該当した15症例(ポメラニアン8症例、トイプードル6症例、チワワ1症例)である。(1) 進行性の脱毛を主訴に来院した。(2) 炎症性皮膚疾患、甲状腺機能低下症、副腎皮質機能亢進症を除外し毛周期停止と診断した。(3) トリロスタン投与に同意のあった。方法は、トリロスタン 1.06-2.94 mg/kg を1日2回投与し、被毛の再生の有無および再生が見られるまでの期間を記録した。

3. 結果：トリロスタンを投与した15症例中、11例(ポメラニアン6例、トイプードル4例、チワワ1例)で被毛の再生が確認できた。被毛の再生が確認されるまでの期間は1か

月から4.5か月の間であった。2例は被毛の再生が確認できなかったため無効と判断した。残り2例に関しては、治療中断により効果を判定できなかった。また、全15症例でトリロスタンが原因と考えられる副作用は観察されなかった。

4. 考察および結語：本研究では、毛周期停止に対して、トリロスタン投与を行った73% (ポメラニアンでは75%、トイプードルでは67%、チワワでは100%)で被毛の再生がみられた。確立された治療法がない中では、十分に有効な結果であると言える。ただ、トリロスタンの投与は副作用の観点から敬遠されることもある。しかし、本研究においても、また過去の報告においても明らかな副作用は見られていない。副作用には注意を忘れるべきではないが、毛周期停止に対してトリロスタンは有効な治療法であると考えられる。